

酒々井町の顔づくり（歴史的風致の保全）事業

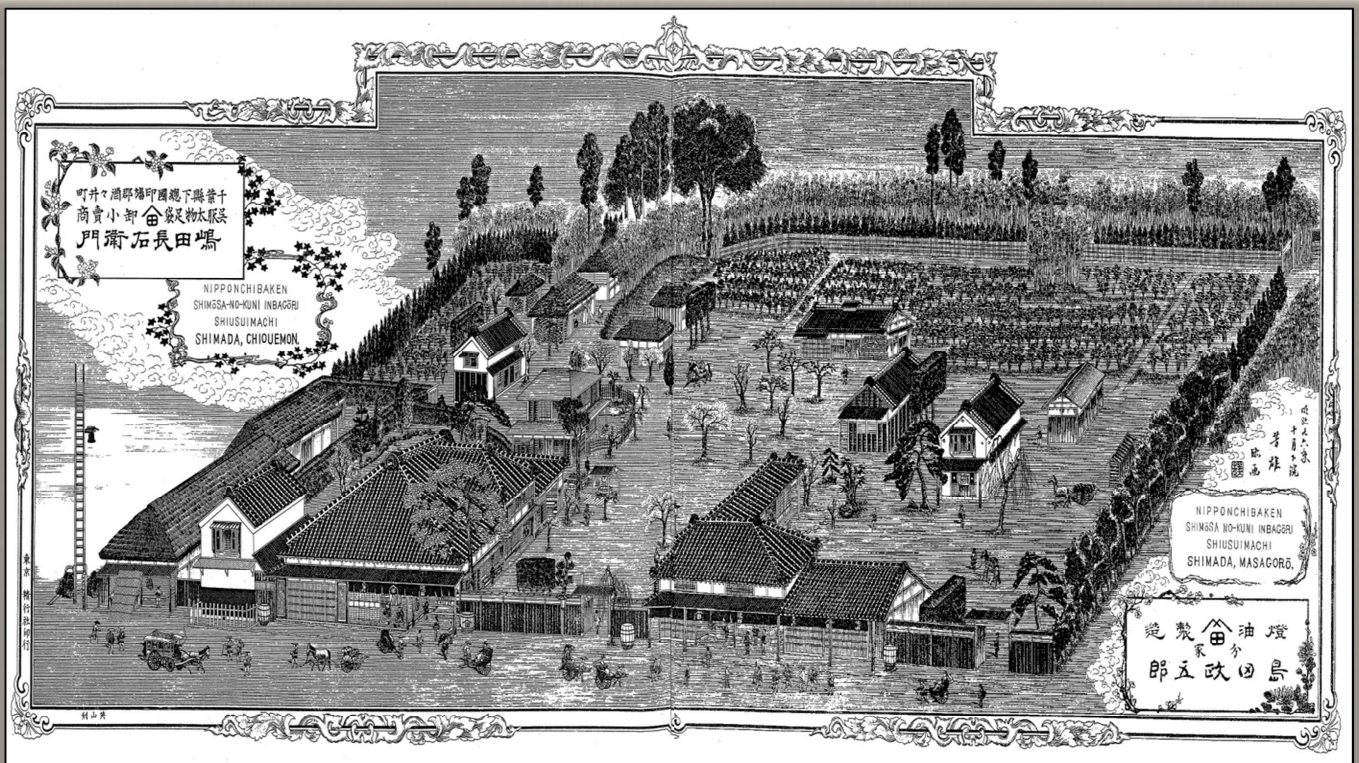
酒々井町には歴史と風土に育まれた多様で豊かな風景が町中にあります。

実り豊かな台地と広々とした水田と目に映る斜面の緑地、生垣に囲まれた住宅街、野の仏、平安の仏が住まう古寺、町名由来の酒の井の寺、獅子舞の里にたたずむ鎮守の森など枚挙にいとまがないほどです。

これらは町に住む人々にとって安らぎを与え、癒しをもたらし、訪れる人を引き寄せる「町の顔」といえます。

そして、この風景は住民が住みやすさを願い、自然に対して長い時間をかけて造られてきた「地域の宝物」であり町民一人ひとりが守り伝えていく必要があります。

町では地域の宝物を町民とともに積極的に保存し、町民の住環境の向上を図るための新たな取り組みを「町の顔づくり」事業として旧酒々井宿で実施していますのでご紹介します。



酒々井仲宿 島田長右衛門家 島田政五郎家 「日本博覧図」 明治 27 (1894) 年

旧酒々井宿

旧酒々井宿は平安時代に村として誕生し、町名の由来となった「酒の井」、戦国時代の城下など中世を通じて千葉氏をはじめとした武士たちが活躍した土地でした。

天正19(1591)年に徳川家康の命により千葉氏城下町を再編し宿駅として町づくりが行われ酒々井宿として成立します。

このときに一里塚(旧成田信用金庫跡)から麻賀多神社まで長さ約750m、幅約150mの区画整理が行われ上宿、中宿、下宿、横町の街区が設定されました。

江戸初期に「酒々井」にあった佐倉藩の城が鹿島(佐倉市)に移転しますが酒々井宿は佐倉城の城下町として機能し、江戸中期には芝山街道の三差路から中川境の桜山(築山)までの街道筋に幕府野馬会所、勝蔵院を中心とした現在の町割が整い、明治初期まで競馬をはじめ年に三度の祭礼が行われ酒々井宿には近隣の人々が大勢集まったと伝わります。

現在、江戸時代の建物は寺院以外には残っていませんが区画整理跡、町割り、寺社、屋敷・屋敷林、石碑などの地域を象徴する建物・構造物が酒々井の町並みに溶け込んでいます。

また明治半ば素封家を紹介した『日本博覧図』に酒々井宿の筋家、島田本家・分家が描かれていますが、現在でもこの家々は現存しており明治時代の町並みの雰囲気伝わります。

約400年余りにわたる町並みや神社仏閣と街道が一体となる町並み景観が伝わる全国的にも稀な事例となっています。



酒々井村町鹿(そ)絵図 (江戸末期)

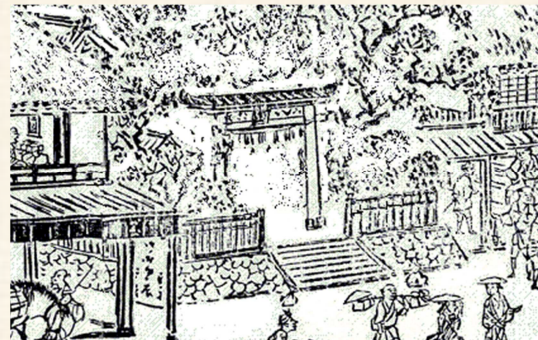
旧酒々井宿の風景 1



1
左
新宿
芝山道三差路
右
芝山道道標
(現在、芝山仁
王尊に移動)



2 新宿 壹里塚 (一里塚、旧成田信金跡)



3 上宿 八坂神社

成田参詣記(1858年)の八坂神社



4 下宿 高札場跡

酒々井村町麓(そ)絵図の高札場

旧酒々井宿の風景 2



5 中宿 勝蔵院 不動明王坐像



6 下宿 円福院神宮寺 酒の井

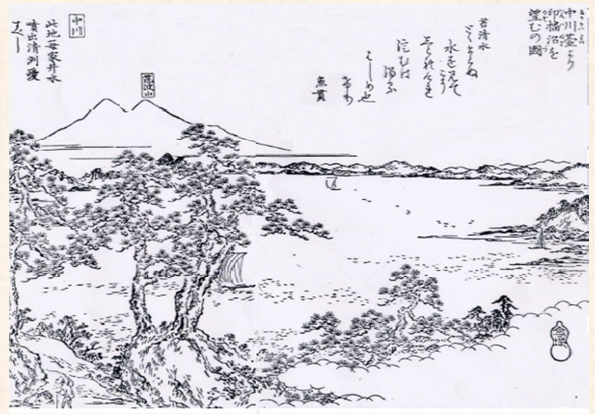


7
左
下宿 麻賀多神社

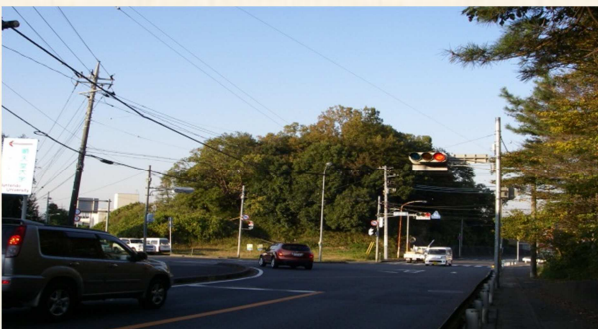
右
山車人形
「小野道風」
作 三代目 仲 秀英



8 下り松 (中川台) の眺望



中川台より印旛沼の景 成田名所図会



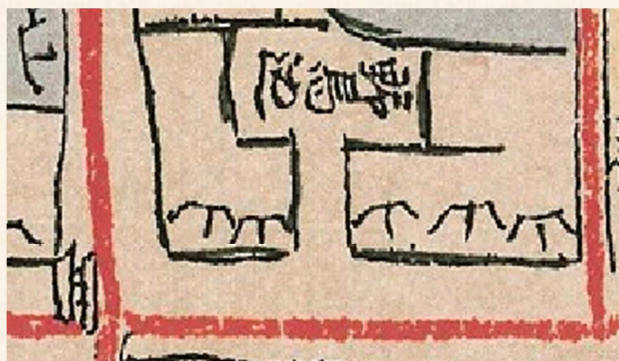
9
左
桜山 (築山)
右
明治天皇駐蹕碑
ちゅううひつ

酒々井仲宿 島田本家・分家 (酒々井町登録有形文化財)

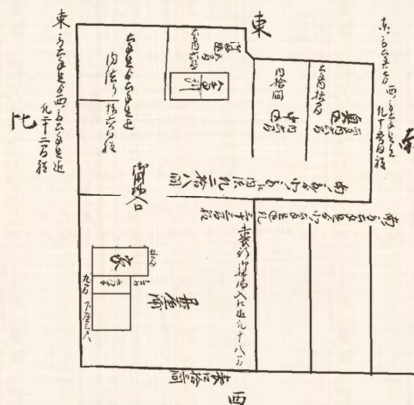
酒々井宿の遺跡と歴史的な雰囲気形成する建造物として、酒々井宿の中央、仲宿に島田本家（長右衛門）・分家（政五郎）があります。

島田家は江戸時代を通じて幕府野馬(のま)御用を勤める牧士(もくし)の家で、かつては宅地裏に野馬会所(のまかいしょ)と野馬払い場、北隣には問屋場、南隣には野馬会所に勤める家々が続いていました。

江戸時代の建物は存在していませんが、島田本家・分家は旧宿場の中央に位置する明治時代前期の建物で歴史的な景観を形成する貴重な商家建物であること、幕府野馬会所の重要な記録を残していること、地形・地割から旧状を復元が可能なことから酒々井町登録有形文化財となっています。



野馬込 (酒々井村町鹿絵図)



野馬込、会所図 (島田家文書)



(野馬込跡・会所跡)

問屋場 店蔵 店・住居

店・住居 油蔵棟

島田長右衛門家

島田政五郎家

島田本家・分家の修景

島田長右衛門家（本家）、島田政五郎家（分家）とも建物に一部改変が見られますが屋根、軸組、小屋組み、間取りは建築時の意匠を留めています。

このため島田長右衛門家では外見を見やすくするため外構のブロック塀を撤去して板塀風の外構を施し、島田政五郎家では看板を撤去しました。また見学者の便を図るための空間（歩道帯）として敷地の一部を土に似せた舗装を施しました。

酒々井町登録有形文化財 島田長右衛門家（本家）

店舗兼住宅一棟 木造一部二階建て 寄棟棧瓦葺（さんがわらぶき） 出桁（せがい）造り
島田長右衛門家は牧士頭を勤めていた家で、明治 7（1874）年に野馬御用を辞し、呉服・太物・足袋の小売問屋を開業しました。

この建物は明治 10（1877）年前後に店舗兼住宅として建築されたもので、道路に面する店舗部分は南北棟で住居は店舗と直交する町屋づくりとなっています。

酒々井町登録有形文化財 島田政五郎家（分家）

店舗兼住宅一棟 木造店舗部分厨子（ずし）二階建て 寄棟棧瓦葺 出桁造り
島田政五郎家は明治前期に島田長右衛門家から分家し灯油の製造を行っていました。明治 26（1893）年に描かれた日本博覧図では、道路に面する店舗は南北棟で住居は店舗と直交する町屋づくりで漆喰塗り込めの防火造りの油蔵棟を付設しています。



上 修景前
看板、ブロック塀が風景を阻害していました。



下 修景後
風景阻害物を撤去。また説明看板と歩行者の空間を確保しました。